

## 馬頭最終処分場に関する基本協定書に調印

県が備中沢地区に建設を計画している県内初の県営管理型最終処分場について、県と町は2月12日、処分場の安全確保や地域振興策支援などを盛り込んだ基本協定を締結しました。

県庁で行われた基本協定書調印式には福田富一知事、川崎和郎町長はじめ、杉本益三議長や町議会議員など関係者約30人が出席しました。

福田知事は「協定締結を契機に決意を新たにし、多重安全システムを備えた全国モデルとなる処分場の早期完成に向け、着実に事業を進める



とともに、町からの要望である環境と共生するまちづくりへの支援についても最大限の努力をしてまいりたい」、また、川崎町長は「本日以降、本当の意味での環境と共生するまちづくりがスタートできると考えています。まだ合意形成に至らない面もありますが、これからの粘り強く県と連携し、合意形成に向けて進めてまいりたい。必ずや将来の那珂川町の発展につながっていくものと確信しています」とあいさつ。その後、知事と町長がそれぞれ基本協定に署名し、固い握手が交わされました。

## 北沢の不法投棄の解決に向けて(29)

今回は、2月12日に町と県が締結した「馬頭最終処分場に関する基本協定」についてお知らせします。

これまでもご説明してきましたように、町では、北沢地区の不法投棄物を適正に処理するための方策について検討を重ねた結果、県営管理型最終処分場を設置し処理することが最良の方策であると判断し、平成16年4月、県に対し処分場建設要望を行いました。これを受け、県では馬頭最終処分場建設事業の実施を決定し、これまで、町と県の信頼関係のもと、事業が進められてきたところです。

現在、事業は処分場用地の取得を進めています。さらに、県との連携強化を図り、着実に事業を推進していくため、文書により明確にすることとし、処分場の建設要請と併せて要望した4項目の内容に関する基本協定を締結しました。

内容は、次のとおりです。

1 県は、町の協力のもと、地域住民の合意形成に配慮しながら、那珂川町和見、小口地区内に処分場を設置し、那珂川町小口字北沢地区に不法投棄された廃棄物(以下「北沢地区不法投棄物」という)を適正に処理する。

2 県は、北沢地区不法投棄物による周辺環境への汚染拡大を未然に防止する対策を講じるとともに、北沢地区不法投棄物の撤去が完了し、安全が確認されるまでの間、周辺地区のモニタリング調査を継続する。

また、汚染拡大の兆候が確認された場合は、速やかに対策を講じる。

3 県は、処分場の建設にあたり、将来にわたり地域住民の生活環境が保全され、安全が確保されるよう、多重安全システムの考え方を取り入れ、施設設備(ハード)面、

管理運営(ソフト)面において、幾重にも安全対策を講じる。

また、処分場を原因とする公害等が発生するおそれのあるときは、速やかに万全の措置を講じるとともに、万一、風評被害を含む被害が生じた際は、県は責任をもって補償する。

4 県は、処分場建設受け入れを契機とした、町が行う「環境と共生するまちづくり」について、最大限の支援を行う。

5 その他処分場に関し必要な事項については、別途協議し、協定を締結する。

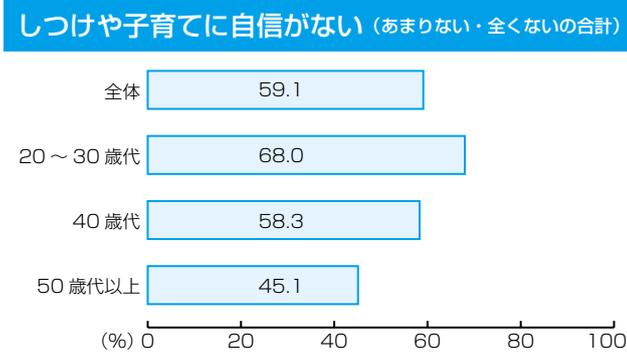
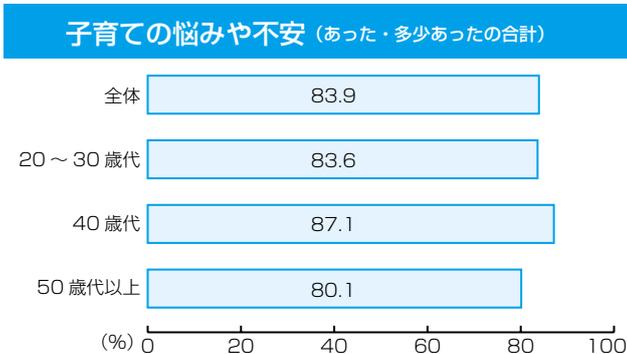
以上の内容を確認し、知事と町長が署名して協定が締結されました。今後は一日も早い不法投棄物の処理に向け、処分場建設事業を推進されることが望まれます。

### 馬頭最終処分場についての相談窓口の開設

相談日時 3月19日(水)  
午後1時～午後6時  
場所 本庁2階第3会議室  
問い合わせ  
県 馬頭処分場整備室  
☎028-623-3227  
町 環境整備対策室  
☎0287-92-1110

## 子育ての悩み―親の8割

先ごろ、平成19年に栃木県教育委員会が行った「家庭教育に関するアンケート」の結果が公表されました。(図参照)この内容からは、子育て経験者の多くが悩みや不安を抱えており、若い年代ほど子育てに自信がもてないでいるという状況が見えてきます。私たち大人が相手にする子どもは、一人ひとり性格や成長のスピードも異なります。



いずれも、県教育委員会「家庭教育に関するアンケート」調査結果に基づく

「親学習プログラム」は、子どもが赤ちゃんのころ、手本にしようと開いた育児書の内容と我が子の違いに、かえって悩んでしまったというようなことを皆さん経験されていると思います。大きくなればなつたで、自分一人で育つたような顔をして反抗され、どうしてこんな風に育ててしまったのかと落胆することもたびたびで、親である以上いつまでも悩みが尽きないのが子育てです。

子どもが赤ちゃんのころ、手本にしようと開いた育児書の内容と我が子の違いに、かえって悩んでしまったというようなことを皆さん経験されていると思います。大きくなればなつたで、自分一人で育つたような顔をして反抗され、どうしてこんな風に育ててしまったのかと落胆することもたびたびで、親である以上いつまでも悩みが尽きないのが子育てです。

## 交流しながら大人が育つ「親学習プログラム」

このような子育ての悩みを、親同士がグループワークなどを通して話し合ったり、知識・手法などを主体的に学ぶことができる参加型学習プログラム「親学習プログラム」を県教育委員会では、平成17年度に作成。翌年度から「親学習プログラム指導者研修」を開催し、プログラムを実施する際の指導者(このコーナーでは学習支援者と言い換えます)を養成するなど「親学習プログラム」の積極的な活用を目指しています。

向きに悩みや不安と付き合うことができるようになっていく様子が見えられます。また、参加した保護者からも好意的なご意見をいただいています。

町生涯学習課でも「親学習プログラム」を子育ての悩みの緩和剤ととらえ、一人でも多くのお父さんお母さんの気持ちで楽になつて前向きに子どもと向き合うことができるよう、学習支援者と協同でプログラムの普及に努めていきたいと考えています。

「親学習プログラム」については町教育委員会生涯学習課へお問い合わせください。  
0287-192-2897



ゲームで和やかな雰囲気 (馬頭西小)



グループごとにワークシートにそって話し合い (馬頭北保育園)



話し合った内容を発表する参加者 (小川南小)